

Windows の巻き返しなるか？ ・・・タブレットで

酒井 寿紀 (Sakai Toshinori) 酒井 IT ビジネス研究所

Android のタブレットが勢揃い

本コラム3月号の「Wintel から Andrarm へ？」に記したように、昨年4月にアップルが iPad を発売して以来、タブレットの市場に火がついた。そして、その大半は OS にグーグルの Android を使っている。デルが昨年6月に英国で Streak を発売し、サムスンは10月に Galaxy Tab を発売した。今年2月にはモトローラが Xoom を発売し、4月には台湾のエイサーが発売した。そして、5月には台湾の HTC が発売の予定だという。また、台湾の ASUS、東芝、パナソニック、ソニーなども発売を予告している。これらはすべて Android を使ったタブレットだ。

Android はもともとスマートフォン用の OS で、今年2月に一般にリリースされたバージョン 3.0 がタブレット向けに強化されたものである。本バージョンの登場を待っていたメーカーも多いと思うので、今年はいよいよ Android のタブレットの商戦が本格化するだろう。

Windows も登場

一方、2009年10月にリリースされたマイクロソフトの Windows 7 もタブレット用の機能を大幅に強化している。マルチタッチのタッチスクリーンを使って画面を拡大・縮小する機能、タッチスクリーン向けの手書き入力機能などだ。また、タブレットはハードディスクの代わりにフラッシュメモリを使うので、フラッシュメモリに適したファイル管理を用意し

ている。

これらの機能を生かしたタブレットが昨年来何機種か発表されている。

韓国の LG は、2010 年内に Android のタブレットを発売すると予告していたが、これを延期し、昨年11月に Windows 7 のタブレットを発表した。

ASUS は今年1月、Android と合わせて Windows 7 のタブレットを発表した。エイサーも Windows 7 のタブレットの発売を予告している。

富士通はこの4月から Windows 7 のタブレットを全世界で順次発売するという。東芝も今年前半に発売するということだ。

また、現在 Android のタブレットを販売しているデルは、今年後半には Windows 7 のタブレットも発売するという。

このように、昨年は Android で iPad に対抗しようとする動きが活発だったが、最近 Windows 7 を使ったタブレットも現れつつある。

閉鎖社会対オープンな世界

現在のタブレットの市場はアップルの iPad が開拓したものだ。しかし、iPad はアップルしか販売せず、そのアプリケーション・プログラム(AP)はアップルが運営する App Store 経由でしか買えない。こういう閉鎖的な社会のため、その普及には限界があると思われる。アップルの Macintosh の普及に限界があったのと同じだ。これは、同様に閉鎖的なタブレットであるリサーチ・イン・モーションの

BlackBerry PlayBook、ヒューレット・パッカートの TouchPad などについても同じである。

したがって、今後は Android と Windows の両陣営がオープンなタブレットの市場で熾烈な戦いを繰り広げることになると思われる。

二股作戦が正解？

iPad の OS である iOS は、もともとスマートフォン用の iPhone で使われていたものだ。そのため、iOS 用の AP の流通市場である App Store には、ゲームや書籍閲覧ソフトなど、iPhone と iPad に共通の AP が多数揃っている。

Android も、もともとスマートフォン用に開発されたもので、現在その AP の流通市場である Android Market に並んでいるのは、スマートフォン向けの AP だ。今後 Android のタブレットが多数現れれば、タブレット向けの AP も揃うだろう。

こういう背景から、iPad や Android のタブレットは「画面の大きいスマートフォン」という色合いが濃い。

一方、オフィスや自宅でパソコンを使ってしていることを、外出先や旅行先でも同じようにしたいというニーズがある。このニーズに対しては、従来ノート・パソコンで対処してきた。タブレットは、このノート・パソコンをさらに簡便にし

たものでもある。

オフィスや自宅のパソコンは圧倒的に Windows 系が多いので、こういうニーズのためには Android よりも Windows 系の方が適している。Windows 7 を使ったタブレットは、こういう市場を狙ったものと思われる。

別の見方をすれば、Android のタブレットは個人向けが中心で、Windows 7 のタブレットは企業向けが中心と言うこともできよう。

このように、両者が狙う市場は多少ずれている。しかし、タブレットをゲームや読書に使うと同時に、外出先ではモバイル・パソコンとしても使いたい人も多いだろう。また、Android 上で Windows の AP と同等のことができるようになる可能性もある。したがって、将来は両者がまともに競合することも考えられる。

Android の方が多少早く戦端を切ったが、勝敗は所詮仲間作りの成否によるので、その帰結がどうなるかはまだ分からない。

こういう状況の下で、ハードウェア・メーカーとして1つの戦略は、デル、ASUS、エイサー、東芝などのように両方の市場に参入しておくことかもしれない。天下の形勢がどうなるか分からず、天下の形勢を決定付けるような力が自社になれば、それが一番確実な戦略である。